

熟議カケアイ サイト運営状況報告・整理と 今後の運営へ向けた課題・論点 (2010年4月17日～7月4日)



2010年7月6日

熟議に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会
サイト運営委員会



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

目次



- ・ サイト運営状況
- ・ サイト運営状況 基礎データ
 - ・ コメント数
 - ・ 発言者数
 - ・ アクセス数
 - ・ 会員数
- ・ 教員資質向上に関する熟議運営履歴の詳細
- ・ 熟議の位置づけの整理
- ・ これまでに実施した熟議の比較整理
- ・ ここまでの運営から見える課題と論点
- ・ 今後の運営へ向けた課題・論点



サイト運営状況

※データは7月2日17時現在

平成22年
4月

4/17

5月

6月

6/7

7月

- 教員の資質向上策
- 保護者・ボランティア・研究者
- 教職員・教育政策関係者・研究者

1,009コメント

教員になる際に身につけるべき「力」

1,137コメント

教員になってから磨き続けるべき「力」

406コメント

管理職等に必要「力」

576コメント

未来の学校

3,737コメント

熟議ケアイをより良くするには？

309コメント

ICTの活用

5/31

402コメント

5/27

168コメント

国立大学法人の課題や
その改善方策

6/17

198コメント

6/3

我が国の研究費を
使いにくくしている問題点

6/30

6/14

学校評価ガイドライン
はどうあるべきか？

6/24

145コメント

コメント総数 8,209件

投票総数 6,932件

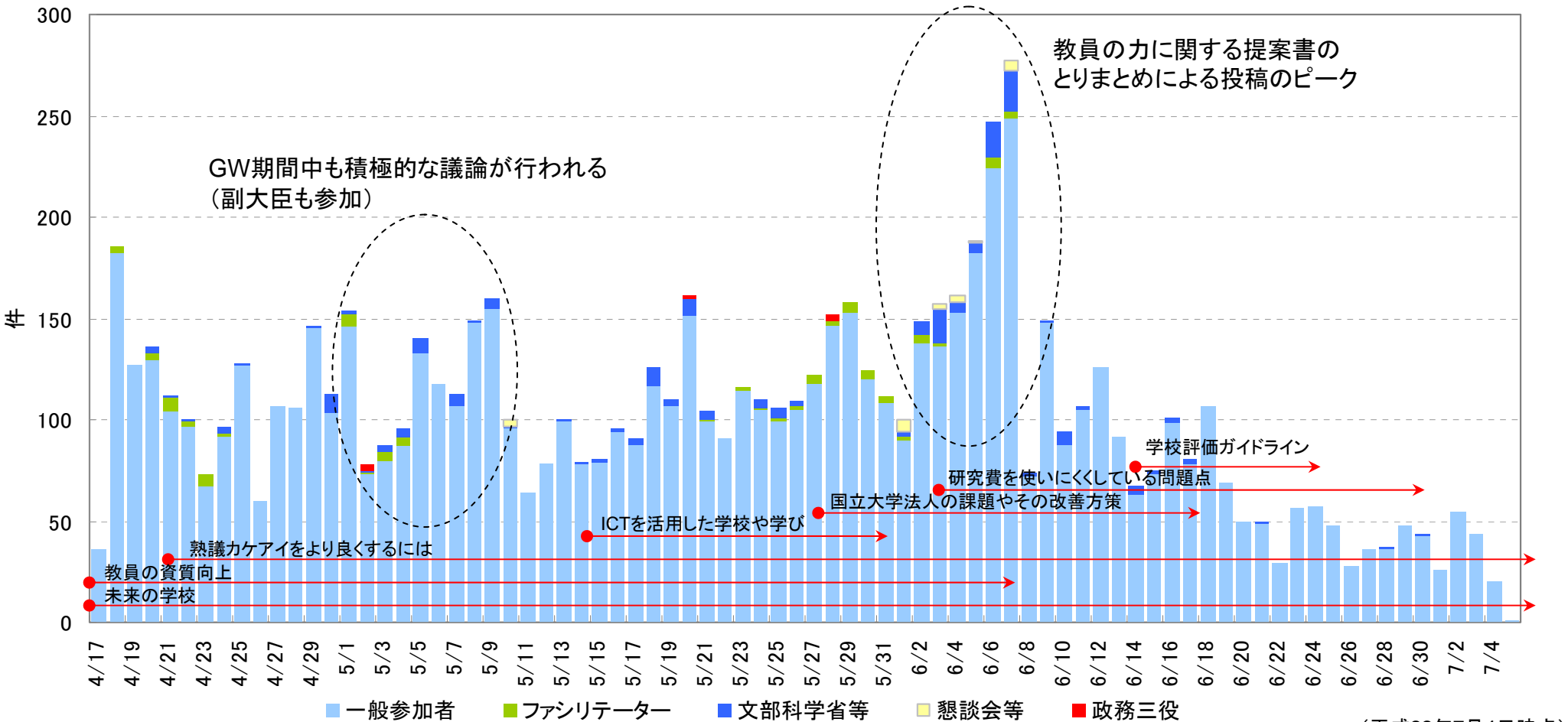


文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

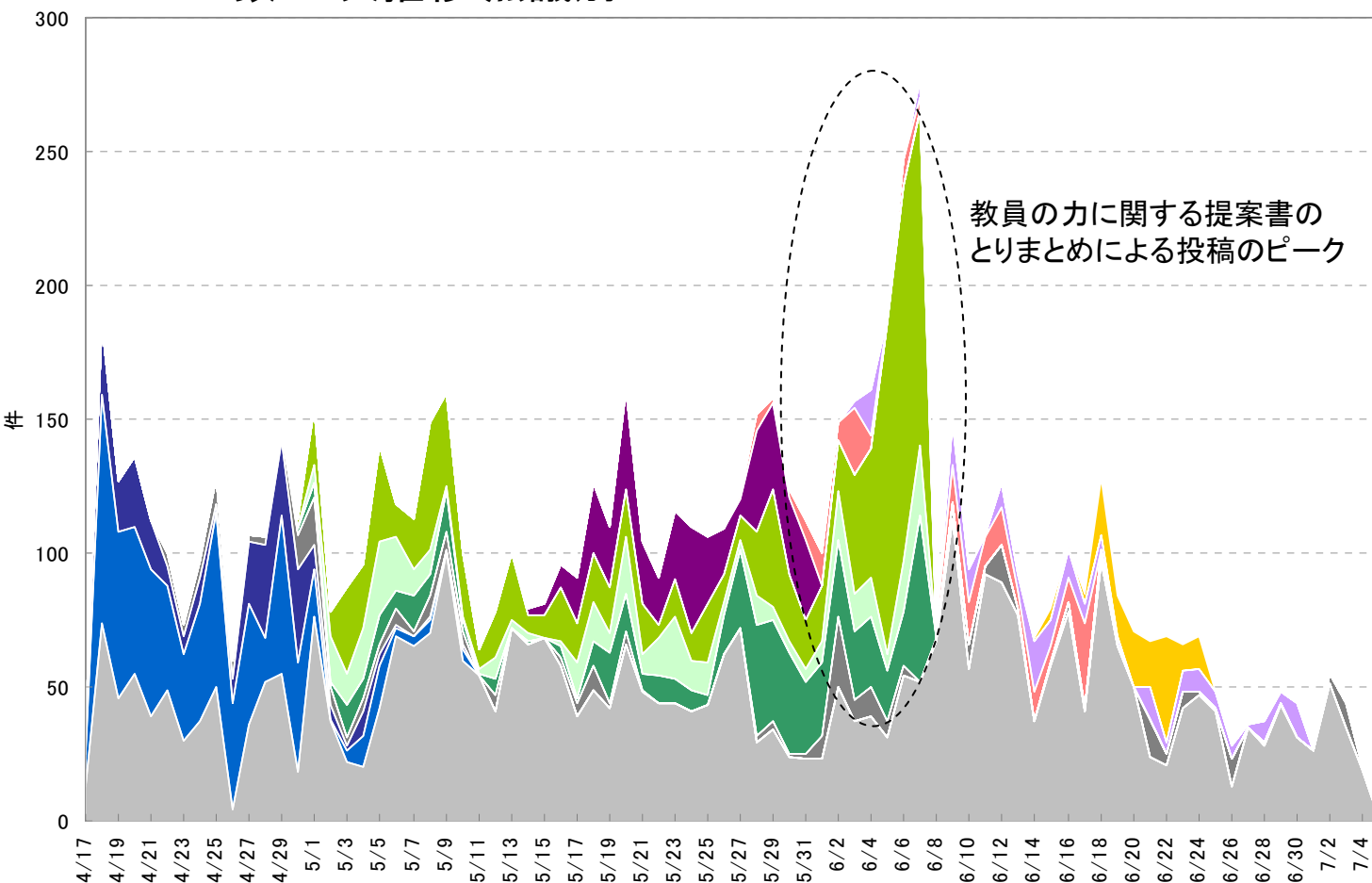
サイト運営状況 基礎データ

コメント数 日次推移類型別



サイト運営状況 基礎データ

コメント数 日次推移 熟議別



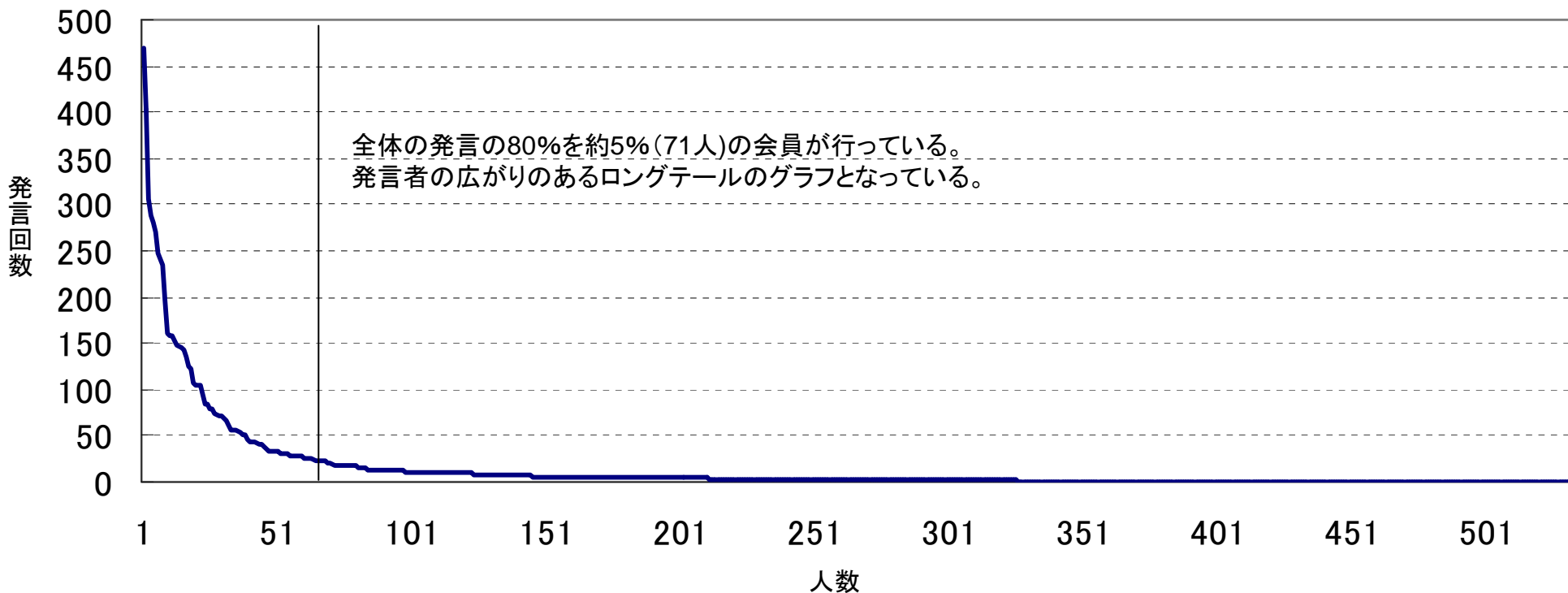
- 熟議名:11. 学校評価ガイドラインはどうあるべきか？
- 熟議名:10. 我が国の研究費を使いにくくしている問題点は何か？
- 熟議名:9. 国立大学法人の課題やその改善方策は？
- 熟議名:8. ICTを活用した21世紀にふさわしい学校や学びとはどうあるべきか？
- 熟議名:7. 教員になる際につけるべき「力」は？そのつけ方は？
- 熟議名:6. 教員になってからも磨き続けるべき「力」は？その磨き方は？
- 熟議名:5. 管理職等にはどのような「力」が必要？そのためにはどうすれば良い？
- 熟議名:4. 熟議カケアイをより良くするには？
- 熟議名:3. 教員の資質向上方策は？（保護者・ボランティア・研究者の皆さまへ）
- 熟議名:2. 教員の資質向上方策は？（教職員・教育政策関係者・研究者の皆さまへ）
- 熟議名:1. 未来の学校

（平成22年7月4日時点）



サイト運営状況 基礎データ

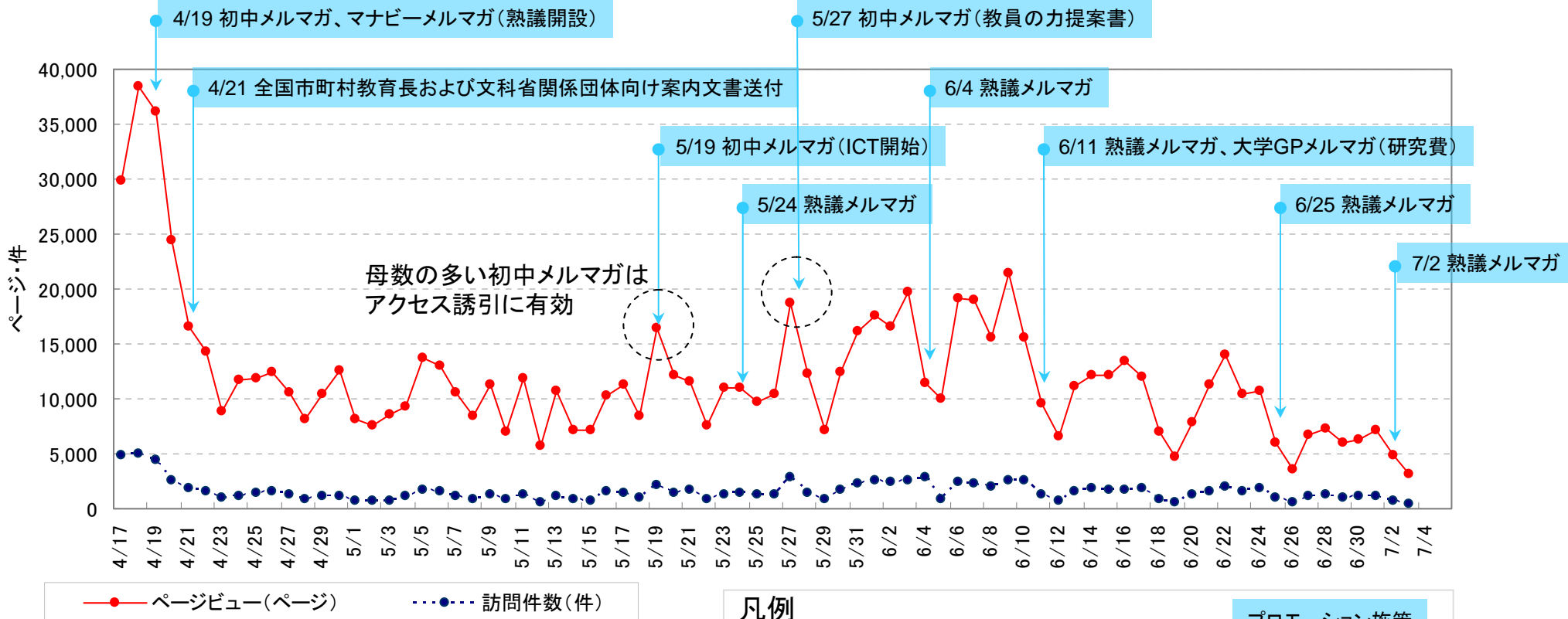
・発言回数別会員数



(平成22年7月4日時点)

サイト運営状況 基礎データ

アクセス数日次推移(ページビュー、訪問件数)



- ・ 1日平均 ページビュー 12,000 PV
- ・ 1日平均訪問件数 1,500 件

凡例

プロモーション施策	
初中メルマガ:	初中教育ニュース(初等中等教育関連) 29,321人
マナビールマガ:	マナビールマガジン(生涯学習・社会教育関連) 1,620人
大学GPメルマガ:	大学改革GPナビーGood Practiceー 15,506人
熟議メルマガ:	熟議カケアイ登録者向けメルマガ 1,494人

(平成22年7月3日時点)

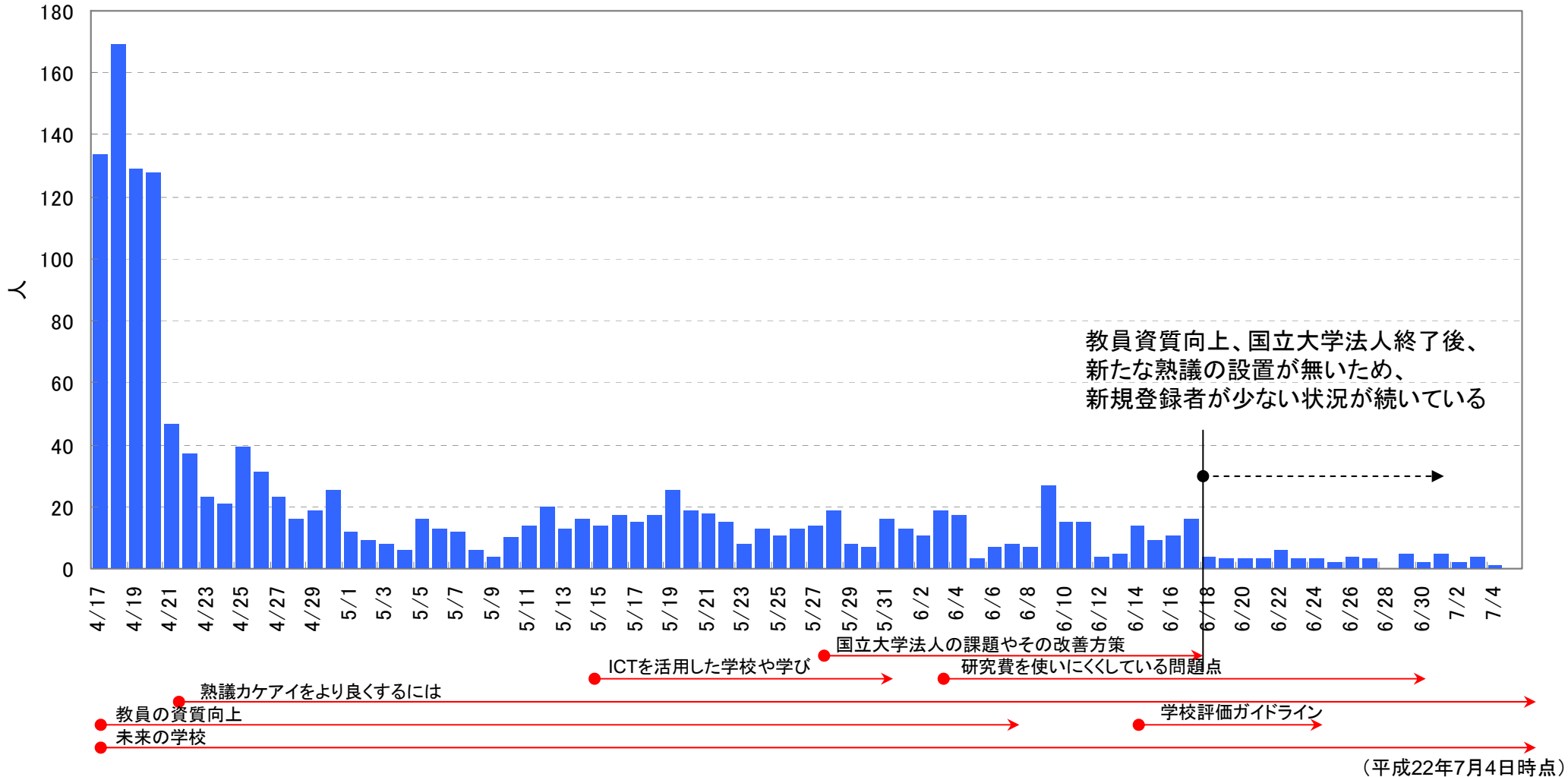


文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

サイト運営状況 基礎データ

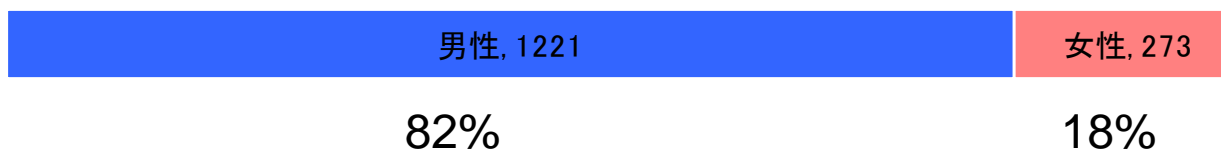
新規登録会員数 日次推移



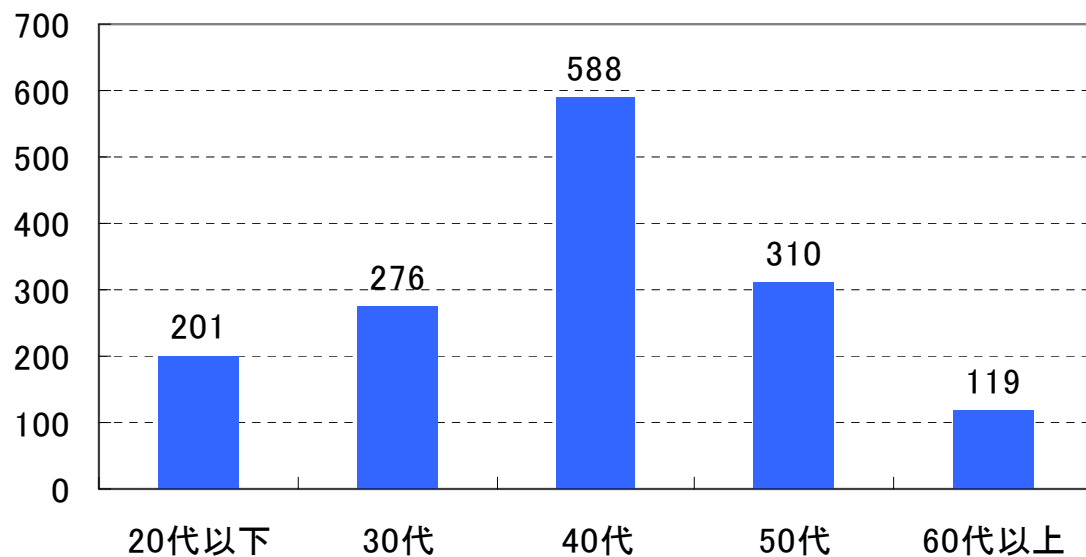
サイト運営状況 基礎データ

会員数 合計 **1,494名**

会員数 性別



会員数 年齢別



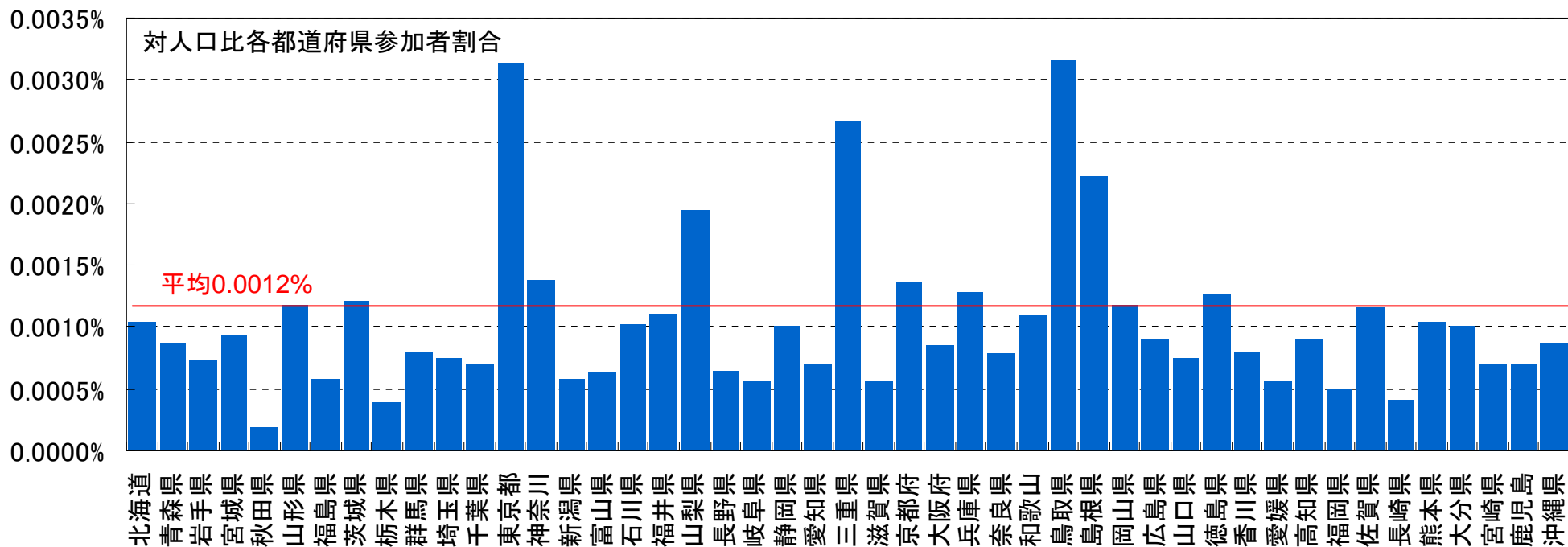
(平成22年7月4日時点)



サイト運営状況 基礎データ

会員数 都道府県別

北海道	58名	栃木県	8名	石川県	12名	滋賀県	8名	岡山県	23名	佐賀県	10名
青森県	12名	群馬県	16名	福井県	9名	京都府	36名	広島県	26名	長崎県	6名
岩手県	10名	埼玉県	53名	山梨県	17名	大阪府	75名	山口県	11名	熊本県	19名
宮城県	22名	千葉県	43名	長野県	14名	兵庫県	72名	徳島県	10名	大分県	12名
秋田県	2名	東京都	404名	岐阜県	12名	奈良県	11名	香川県	8名	宮崎県	8名
山形県	14名	神奈川県	124名	静岡県	38名	和歌山県	11名	愛媛県	8名	鹿児島県	12名
福島県	12名	新潟県	14名	愛知県	52名	鳥取県	19名	高知県	7名	沖縄県	12名
茨城県	36名	富山県	7名	三重県	50名	島根県	16名	福岡県	25名	海外	10名

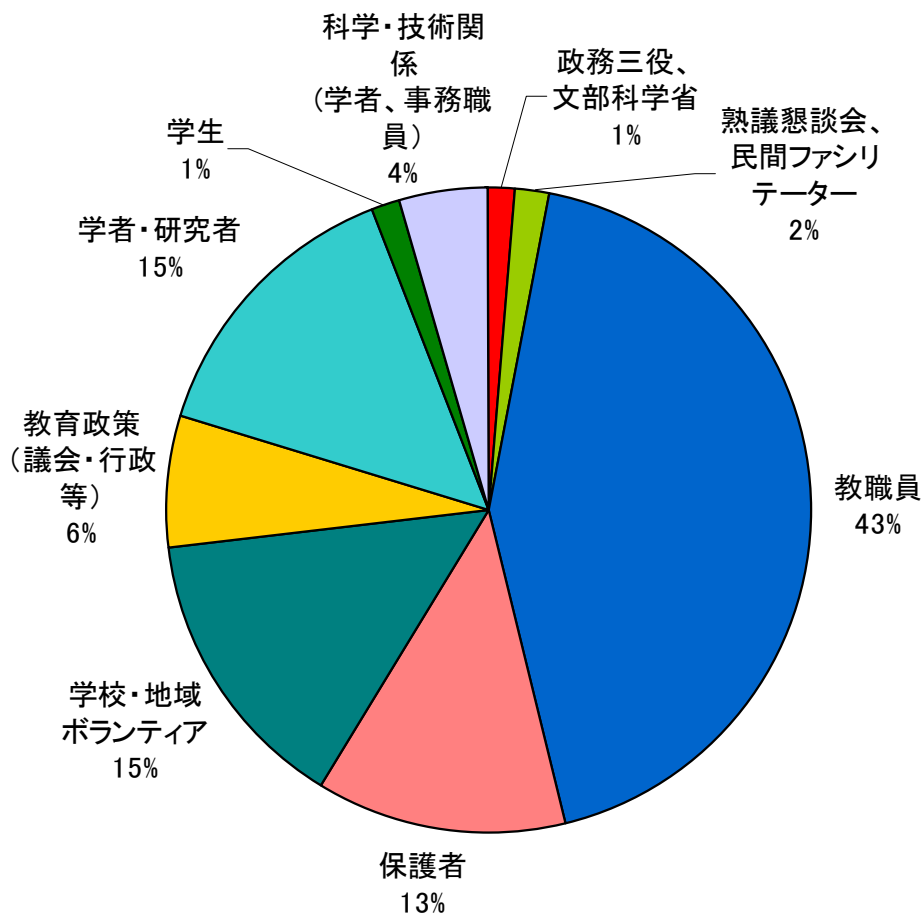


(平成22年7月4日時点)



サイト運営状況 基礎データ

会員数 グループ別

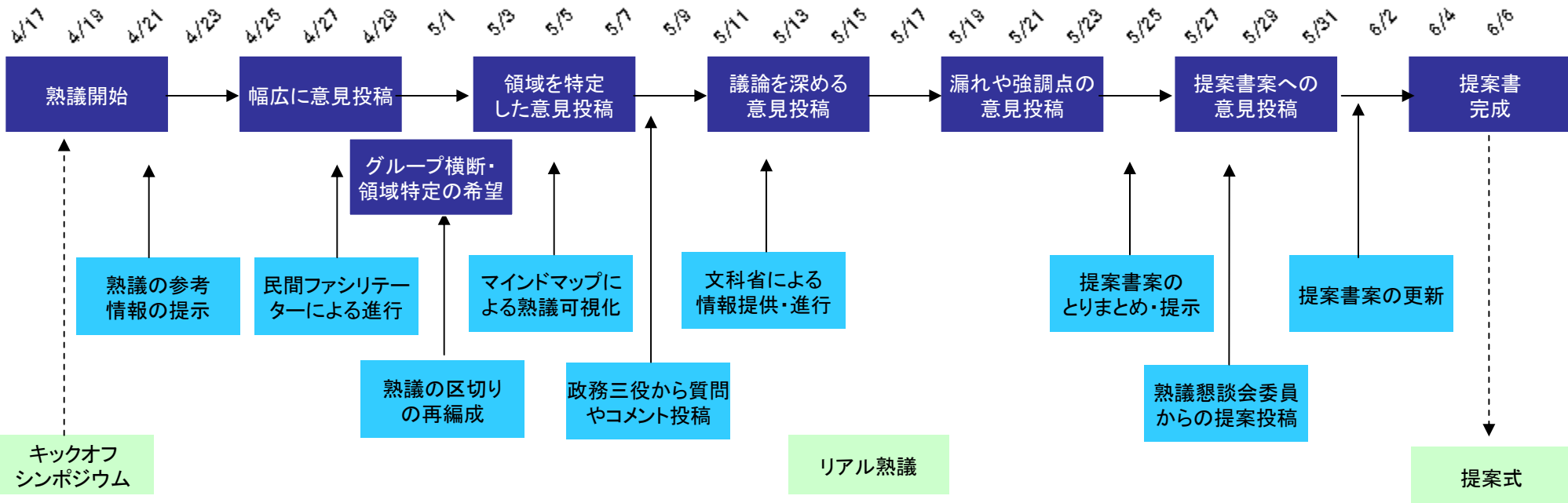


政務三役、文部科学省	23名
熟議懇談会、民間ファシリテーター	23名
教職員	642名
保護者	187名
学校・地域ボランティア	217名
教育政策(議会・行政等)	97名
学者・研究者	218名
学生	20名
科学・技術関係(学者、事務職員等)	67名
合計	1494名

* 追加で設置されたグループは下記のとおり
 学生グループ 5月27日、科学・技術関係 6月3日

(平成22年7月4日時点)

教員資質向上に関する熟議 運営履歴の詳細

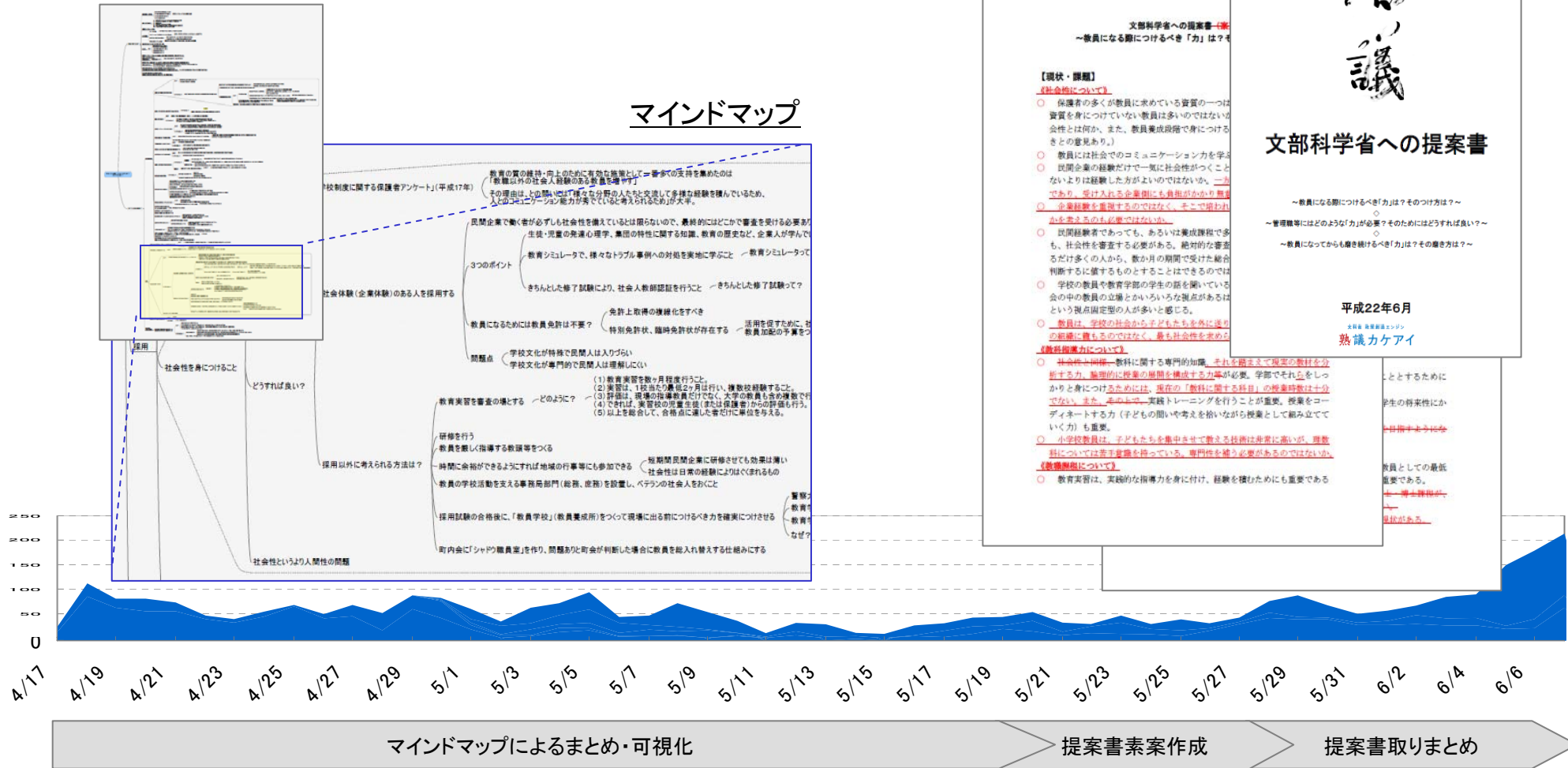


ネット熟議の動き 運営アクション リアルの動き

教員資質向上に関する熟議 運営履歴の詳細

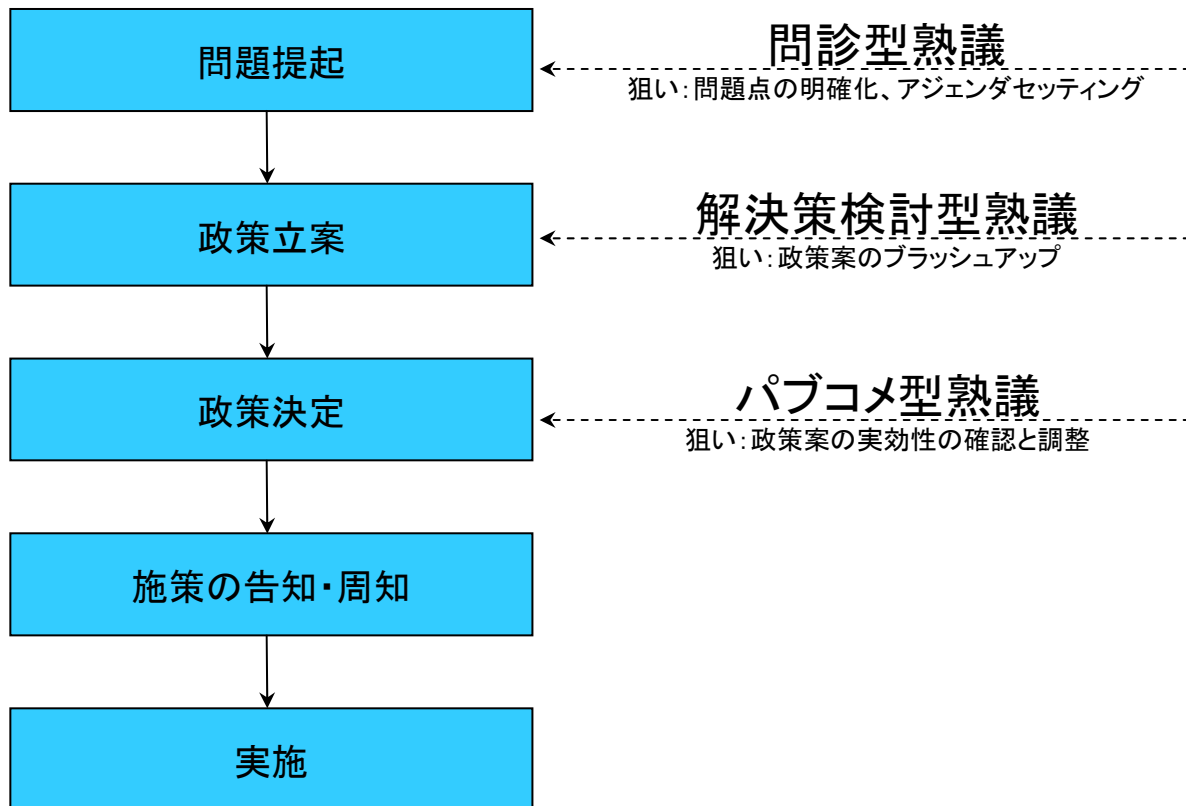
熟議の内容の可視化、とりまとめは、前半はマインドマップ形式、後半は「文部科学省への提案書」の形式で行った。

提案書

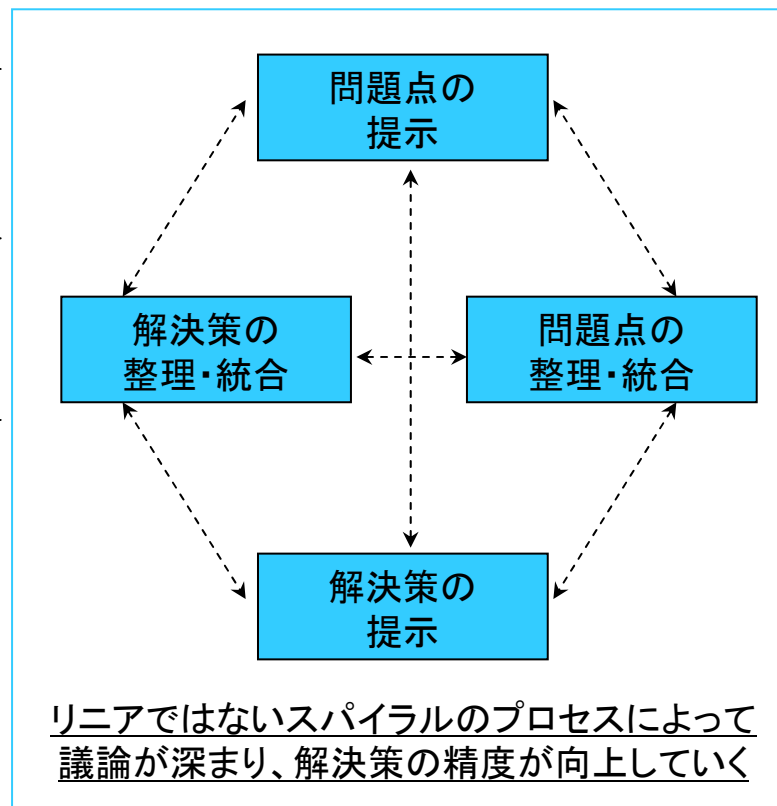


熟議の位置づけの整理

政策実現フロー



熟議で行われる思考プロセス



熟議を政策実現のどのステップで実施するかによって、複数の熟議の在り方が考えられる。また、熟議プロセスを教育現場の当事者と実施することによって、政策形成に現場の声を活かすとともに、実施段階での告知・周知の効果（現場参加による納得）も想定される。

これまでに実施した熟議の比較整理

実施した各熟議について、運営上の特徴を整理すると下記のようなになる。設定するテーマの幅広さ、情報提供の形態、ファシリテーションの実施方法等について、複数の形式で実施している。

熟議名	議題の範囲	ねらい		実施日数	開始方法		ファシリテーション			特徴
		問題点の熟議	解決策の熟議		議論のたたき台提示	議論の参考情報提示	円滑な運営のための議事進行	継続的な情報提供	内容に踏み込んだ議事進行	
教員の資質向上<前半>*1	中(領域指定)	○	○	23		○	○	○		領域を特定したフリー熟議
教員の資質向上<後半>*2	中(領域指定)	○	○	39	○ 提案書素案	○	○	○	○	具体的成果物を作成する熟議
未来の学校	広(フリー)	○	○	81(継続中)			○			幅広いテーマでのフリー熟議
熟議カケアイをより良くするには？	-	-	-	76(継続中)	-	-	○	○		(サイトの課題・要望収集と意見交換)
ICTを活用した21世紀にふさわしい学校や学びとはどうあるべきか？	中(領域指定)	○	○	18		○	○	○		審議会と併走での熟議
国立大学法人の課題やその改善方策は？	中(領域指定)	○	○	22	○ 中間まとめ(案)	○	○	○		調査結果を元にしたパブコメ型熟議
我が国の研究費を使いにくしている問題点は何か？	中(領域指定)	○	○	28	○ アンケート結果	○	○	○		想定問題点を元にした問診
学校評価ガイドラインはどうあるべきか？	狭(制度設計)	○	○	10	○ 調査研究協力者の議論	○	○			詳細制度に特定したパブコメ型熟議

*1 教員の資質向上<前半>は次の2つの熟議によって実施した

「教員の資質向上方策は？(保護者・ボランティア・研究者の皆さまへ)」「教員の資質向上方策は？(教職員・教育政策関係者・研究者の皆さまへ)」

*2 教員の資質向上<後半>は次の3つの熟議によって実施した。

「教員になる際につけるべき「力」は？そのつけ方は？」「教員になってからも磨き続けるべき「力」は？その磨き方は？」「管理職等にはどのような「力」が必要？そのためにはどうすれば良い？」

「問診型」「解決策検討型」「パブコメ型」各熟議で、運営手法のベストな組み合わせを検討することが必要



ここまでの運営から見える課題と論点

熟議力ケアイの参加・熟議ステップ



認知
〜
登録

・認知～登録の課題

議論の展開を理解しなければ参加することが難しく思われること等から、参加者にとって、参加の敷居が高くなっている

熟議の目的・目標が共有されないこと等により、参加者にとって、本サイトへの参加の動機づけが見え難くなっている。

学習

・学習の課題

他者の意見や、資料を確認しての学習は限定的情報の見難さ、情報量の多さに起因する

発言
〜
意見の洗練

・発言～意見の洗練

発言者の固定化が見られる。
議論の流れ、論点や対立が見えづらい。
意見の洗練、問題意識傾向の把握、
アイデア収集等、更なる向上が求められる。

政策
形成

・政策形成へ結びつけ方の課題

議論の結果の整理方法、政策形成への手順が必ずしも明確化・共有されていない



今後の運営へ向けた課題・論点

- より良いネット熟議の実現のため、熟議懇談会としてネット熟議の運営にどのように関わっていくことが必要か。
- 熟議の結果を、どのように政策にフィードバックしていくのか。その手順を整理することは、熟議参加者や文科省のみならず、今後の熟議の他省庁への展開においても参考となると思われる。
- ネット熟議とリアル熟議の連携をどのように整理するべきか。

